

目指す学校像	元気いっぱい 笑顔いっぱい 感動いっぱい 春野っ子
--------	---------------------------

重点目標	1 学ぶ楽しさや喜びを味わい、互いに磨き合うことができる学校 2 安全に配慮し、美しく整えられた環境づくりがなされている学校 3 家庭・地域との連携を深め、地域と共に生きる学校
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学校運営協議会による評価				
年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和6年2月7日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均と比べ概ねやや下回っている結果である。 ○市の学習状況調査において、主体的に学習に取り組む態度に関する肯定的な回答をした児童の割合は、国語は高いが、他教科ではやや低い。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に国語の「読むこと」、算数の「数と計算」、理科の「エネルギー」領域等、主に「知識・技能」に関する設問について、結果の二極化傾向が見られる。 ○日頃の学習の様子から、色々な事柄に興味関心をもって取り組む児童が多いが、長い時間集中して取り組むことが苦手な児童が多い。	・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善 ・学ぶ楽しさを実感し、学習習慣を身に付ける「朝学習の時間」の定着	①国語、算数について、スタディサプリ、ドリルパークなどの学習への取組状況を基に学習相談を実施して、児童が目標をもって学習できるようにする。 ②全国学力、学習状況調査について、児童が自己採点を行い、その結果を情報端末上のシートに入力することで、児童が自らの学習状況を把握できるようにする。	①学校運営評価の保護者アンケートにおいて「基礎学力を高めるために工夫した学習指導を行っている」について肯定的な回答をする保護者の割合が80%以上となったか。 ②児童が自己採点の結果を基に、自らの学習状況をつかみ、目標を立て、達成に向けて行動できるようになったか。	①国語、算数について、スタディサプリ、ドリルパークなどの学習への取組状況が学年間に差があった。個人面談の際に学習相談を含めて行うことで児童の困り感に寄り添うようにした。(アンケート結果74%) ②全国学力、学習状況調査について、児童が自己採点を行い、その結果を情報端末上のシートに入力することで、児童が自らの学習状況を把握できるようにし、振り返らせることができた。	B	①国語、算数について、スタディサプリ、ドリルパークなどの学習への取組状況が学年間に差があった。個人面談の際に学習相談を含めて行うことで児童の困り感に寄り添うようにしていく。 ②自己採点結果の振り返りから、具体的な目標をどのように持たせるのかの工夫が必要である。	・個人面談では、十分な時間を確保し、児童の困り感を聞き出すことが大切である。 ・児童が自分の課題について、自分で理解し、担任と課題を共有できるような方法がとられるとよい。 ・子どもの活字離れは深刻である。活字に親しむ機会や場を学校が提供していくことはよい取組である。 ・タブレット以外の方法での個人差を解消する取組に期待したい。
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国、市平均をやや上回っている。 ○昨年度、施設・設備の不具合等が主な原因と考えられる児童のけが、救急搬送を伴うもの、交通事故は0件であった。 (課題) ○コロナ禍によるストレスや不透明感、生活の変化が児童の心身に与える影響が大きいことから、教室に入れない児童、保健室登校等について、今後も児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制充実 ・安全な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成に向けた教育活動の充実	①情報端末を活用して児童向けアンケートや面談等の記録を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。 ②教育支援・相談に係る校内委員会で、ICTを活用することで、蓄積した情報を基に児童の状況を緩やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。	①毎月の校内委員会において、情報端末を活用して児童一人ひとりの状況を継続的に把握することができた。 ②学校運営評価の保護者アンケート「学は子どもの悩みやトラブル等について適切に対応している」の肯定的な回答の割合が70%以上となったか。	①毎月の教育相談・生徒指導委員会において、情報端末を活用して児童一人ひとりの状況を継続的に把握することができた。 ②毎月の校内委員会では、専門職からの助言も頂きながら、報告だけで終わらず、支援策・対応策まで検討したことで、効果が得られた。(アンケート結果80%)	B	①学年や担任が変わっても、児童一人ひとりに継続的な支援ができるようなシステムができてきたので、継続性が課題である。 ②限られた職員数で、支援が必要な児童や保護者が増えていく現状にどのように対応していくか、保護者・家庭との連携を工夫していく。	・協議会として市教委に、SCやSWの常駐化を強く要望する。 ・協議会として市教委に、教員の加配を強く要望する。 ・児童が自分自身について、理解することができると、さらに自主的になるのだが、動機づけが難しい。 ・対面以外の方法など、教育相談の方法や内容を工夫することも解決の糸口となる。
3	(現状) ○目指す児童の姿について共通理解を図り、検討を積み重ね、春野小の児童を地域全体で育てていくことを共有した。 (課題) ○学校運営協議会で共有した目指す児童の姿を、家庭、地域に広め、地域に住み、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。また、児童に育てたい力についてさらに検討し、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けて取り組む。	・目指す児童の姿を地域全体で共有するためのICT活用、教育活動の公開 ・児童の自律と望ましい人間関係の構築につながる、継続的な取組に向けた異学年交流、集団活動の充実	①本校HP内に、PTAに関するページを作成し、学校とPTAの連携を強化し、保護者・地域と一体になって児童を育てる姿勢を明確にする。 ②学校行事等について、学校に関わる人々がHPで閲覧できるようにし、学校の教育活動や児童の成長に対する関心を高める。	①学校ホームページで児童の活動を週1回の頻度で更新するとともに、配布物の電子化を進める。 ②学校運営評価の保護者アンケートで、「学校では家庭への連絡をきめ細かく行っている」と回答する割合が80%以上となったか。	①学校ホームページで児童の活動を週1回の頻度で更新することができた。配布物の電子化も順調に進めることができた。 ②職員間で確認を徹底したことで連絡忘れ・遅れが少なくなった (アンケート結果83%)	B	①学校ホームページの週1回の更新を引き続き実施し、学校の教育活動への理解と周知を図っていく。 ②配布物のアプリの活用を検討し、配布物の電子化をより一層推進していく。	・田んぼの取組は非常によい取組だが、暑さ対策等について工夫が必要である。 ・子どもが自分を表現する力はどのように育っているか。 ・地域のまつりへの参加者が増えてきた。今後も引き続き、増えていく必要がある。 ・学校からの配付文書は、電子と紙とを目的や場合に応じて使い分けるとよい。
4	(現状) ○情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、校内研修を重ね、研究授業等においても、活用事例を蓄積してきた。 (課題) ○ICTの活用について、教員間で取組の差が見られる。誰もが学び続けることができる職場環境へと工夫改善を進める。	・一人ひとりが持ち味を発揮し、強みを発揮し、弱点をカバーしあう、学校に集う誰もが居心地のよい集団の創造	①年間を通して、エバンジェリストを中心に、ICT日より・動画を発行し、全ての教員の指導力を向上させる。 ②一人ひとりの教員が年間を通して取り組む授業改善の目標を設定し、目標達成に向けた授業を年1回以上と、研究授業・協議会をブロック学年で1回ずつ実施する。	①全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。 ②全ての教員が、自らの目標に向けて授業改善策に取り組み、児童の実態調査・アンケート結果において、80%以上の教員が肯定的な評価80%以上を達成することができたか。	①朝のICTタイムを計画的・継続的に実施することができ、学校課題研修においても活用を図ることができた。 ②全ての教員が、一人一授業を校内研修と関連づけ実施することができ、授業改善に組織的に取り組むことができた。ICTを活用した、授業改善に取り組み、指導力の向上を図ることができた。 (アンケート結果92%)	B	①タブレットの破損・修理に対し、不足分を学校全体でどのように補い、児童の学習を保証していくかについて工夫していく。 ②教員自らが主体的に学び、深めていく校内研修の方法や内容について、より一層の研修の工夫改善を行っていく。	・子どもの躰は本来、家庭で行うものであり、そうした話を保護者に話せる場が欲しい。 ・児童委員や民生委員との連携を密にできる場があるとよい。 ・アンケートの回収率をあげる工夫が必要である。 ・子どもの学習の達成度や進捗状況が分かりにくい。